

## 令和3年度事業報告

- 【運動方針】 日本の美風の「蘇生」と「新生」
- 【重点活動】 「伝えよう、日本の心プロジェクト」
- 【スローガン】 できる親切はみんなでしょう、それが命を守る力となるように

### 《概況》

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により、対面でのコミュニケーションが非常に困難な1年となった。

オリンピック・パラリンピックを盛り上げ、「小さな親切」運動を多くの方に知っていただく、「伝えよう、日本の心プロジェクト」を重点活動に掲げたが、海外との交流機会が非常に限られていたこと、また多くの地域で「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が複数回適用されたことから、多くの方が集う活動を行うことは難しかった。ただ一方で、コロナ禍ならではの心温まる実行章推薦、コンクール応募作品は多数寄せられており、こうした状況下だからこそ、思いやりの心の重要性、ひいては「小さな親切」運動の必要性が高まっていることが改めて確認できた。

なお会員数に関しては、会員の高齢化や長引く感染症の影響等から減少傾向にあるものの、地域組織の働きかけなどにより、個人正会員、個人寄附会員、個人会員に関しては増加となった。現在の会員数は150,073名（内訳：個人正会員93名、個人寄附会員21名、法人正会員31法人、法人寄附会員19法人、個人会員689名、地方賛助会員6,378名、団体会員94,944名、学校会員47,898名）。

また地域組織32道府県本部・135市町村支部では、不自由な状況下でありながら、参加者の安全を考慮した活動が進められた。

### **公益目的事業 1** 「小さな親切」運動を通じて国民の心身の健全な発達と豊かな人間性を涵養

#### 1. 「小さな親切」実行章贈呈事業

##### ○ 令和3年度受章事由の傾向

- ・ コロナ禍が続く、外部との交流が制限される中で、工夫を凝らして人々とつながろうとする子どもたちの事例が目立った。
- ・ 一方で、地域清掃や子どもの見守り活動など、コロナ前と変わらない思いやりの活動の推薦も多数寄せられた。

- 令和3年度受章者数 69,790名 / 令和4年3月25日現在

年度	団体		個人
	団体数	人数	
令和3年度	339	65,949	3,841
参考(令和2年度)	362	44,295	3,975

- ・ 昨年から続くコロナ禍で、他者との交流が減少している状況を受け、推薦件数は昨年度の同時期に比べ160件ほど減少した。
- ・ 一方で、所属人数の多い団体の推薦が寄せられたことから、受章者数では昨年度を上回る。

- 実行章贈呈者数累計 6,069,457名

- ・ 4月25日発表分で、累計受章者が600万人に到達。600万人目受章者として、子どもたちの課外活動支援や地域見守り活動を行っている、「合歓の会(ねむのかい・島根県)」を表彰。山陰本部より賞状ならびに記念の楯を贈呈した。

- 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として実施  
海外との交流、外国人への親切が受章事由である個人、団体に特別バッジを贈呈。



特別バッジ贈呈数：987個

※参考 令和2年度 617個

特別バッジ

- ・ 訪日外国人が激減したため、国際交流の事例も減少。当該年度は日本に長期滞在する外国人との交流から生まれた親切行為の推薦がほとんどであった。

- 実行章贈呈式

- ・ 中央本部では、感染状況が落ち着いた時期に、感染症対策を行った上で、都内の大学や企業など1個人5団体に、代表、副代表が訪問して表彰を行い、その様子を情報誌やSNSで紹介した。
- ・ 毎年開催している贈呈式を中止、延期とした県本部・支部が多数だったが、実行委員会や理事会などの毎月の会合に合わせて伝達式を行う、あるいは受章団体、学校に出向き、少人数で贈呈する組織も複数あった。

- 実行章バッジの販売

価格：1個 150円(税込・送料別)

販売数：1,189個

※参考 令和2年度 1,697個

おもな購入者：8県本部・10支部・学校、受章者本人など

- ・ バッジ購入者の多くは個人受章者や推薦者(受章者に贈呈)であるが、前年度と比べ、個人の受章者が少なかったことから、販売数は減少。

### ○ 実行章受章者へのアンケート

目 的：実行章のもたらす効果を分析するとともに、改めて運動に関心を持っていただき、賛同者になってもらう。

対 象：大人（高校生以上）の個人と団体 860 先

回 答 数：118 件

※参考 令和 2 年度 127 件

受章について「嬉しい」との回答が 95%を超えた。「ささやかな活動でも認めていただけることがこんなにも励みになると思わなかった」「辞退も考えたが、実際に受章して素直に嬉しかった」などの声があった。その他、贈呈式に参加したことで、「身近な企業の取り組みを改めて知り、視野が広がった」「バッジを作業着につけて、これを誇りに益々がんばります」といった声も寄せられており、受章が今後の活動のモチベーションとなっていること、地域のさらなる理解につながっていることがわかった。

なお、平成 29 年度から 5 年にわたり、本アンケートを実施してきたが、ある程度傾向をまとめられたため、定期的なアンケート調査は一旦終了とする。今後については、数年ごとに過去の受章者を対象にするなど、改めて実施方法と質問内容を検討したい。

## 2. 第 46 回「小さな親切」作文コンクール

○ 応募総数 40,565 編（前年度より 16,861 編増）

内 訳：小学生 761 校 9,657 編 ・ 中学生 667 校 30,908 編

※参考 令和 2 年度 23,704 編

（小学生 448 校 3,760 編・中学生 540 校 19,944 編）

- ・ 前年度は感染症流行による学校休校の影響で、夏休みが短縮された結果、応募数が大幅に減少したが、当該年度はほぼ例年並みに回復。

### ○ 応募作品の傾向

- ・ コロナ関連の作文では、学校行事や部活動の中止・規模縮小、外食や旅行などが制限される中、これまで当たり前だと思って過ごしていた日常が「当たり前ではなく、幸せなことだった」と気づいたという内容が最も多かった。また、家族との時間が増えたことで、改めて家族のありがたさを感じたり、家事を手伝う中で日常生活に楽しみを見つかったり、オンラインを活用して海外の人と交流するなど、コロナ禍を前向きに過ごす子どもたちの様子も伝わってきた。
- ・ 人と触れ合う機会が減る中で、手紙の良さを改めて感じたり、常にマスクを着け表情が見えないからこそ、目を見て相手の気持ちを察することの大切さに気づく、など「言葉」や細やかなコミュニケーションの重要性に気づいたとの内容の作文も目立った。
- ・ その他、東京オリンピック・パラリンピックに関連して、ジャマイカの選手を助けた大会スタッフの話や、日本のおもてなしの素晴らしさが海外で報道されたことなどを取り上げた作文が多く、日本人であることを誇りに思うと同時に、海外から日

本がどう評価されているかを強く意識していることがわかった。

- ・ 学校などで「SDGs」を学んで、環境問題に関心を持ち、友達と清掃活動に取り組みはじめたとの作文がいくつかあり、「SDGs」を知ることが、身近な社会貢献のきっかけになっていることがわかった。
- ・ 応募作文の中には、「LGBT」に理解を求める作文が複数あった。差別や偏見はまだあるものの、学校では近年、LGBTに配慮した教育がされていることもあり、当事者が声を上げやすい環境づくりが進んでいるのではないかと感じられた。

○ 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開

特別テーマ①「世界との出会い ～ありがとう、どういたしまして」を設け、「東京2020 応援プログラム」認証を受けて応募要項を作製。

応募要項 8,000 部

○ 特別賞の設定

当該年度は、上記の特別テーマ①に加えて、特別テーマ②「コロナが教えてくれたこと」の2つを設定。特別テーマ①に沿った作文は、入賞・入選 130 編中、10 編(13.0%)、特別テーマ②に沿った作文は、入賞・入選 130 編中 23 編 (17.7%) であった。各テーマの優秀作品には、下記の特別賞を設け、表彰した。

- ① フレンドシップ賞 秋田県 鹿角市立大湯小学校 4年 小田島心深
- ② 審査員特別賞 福岡県 福津市立福間中学校 2年 久保音彩

○ 入賞・入選作品の発表

作品集には、上位 30 作品を収録。入選 100 名は氏名紹介のみとなることから、本部 WEB サイトに全入賞・入選作品を令和 4 年 1 月より 2 月にかけて定期的にアップロードした。

〔実施概要〕

後 援：内閣府 文部科学省 NHK 毎日新聞

テ ィ マ：小さな親切

特別テーマ：① 世界との出会い ～ありがとう、どういたしまして～

② コロナが教えてくれたこと

応募資格：小学生・中学生（小・中学生と同じ学齢のものを含む）

応募方法：1）400 字詰原稿用紙 3 枚以内（本文のみで 1,200 字）

2）地域組織・学校でとりまとめる場合は、必ず選考を行う

副 賞：上位賞／メダル・電子辞書 or 腕時計 (G-Shock) or 電波時計・文房具

入 選／メダル・電波時計・文房具

締め切り：9 月 24 日（金）必着

審 査：第 1 次審査：9 月 27 日（月）～10 月 6 日（水）

第 2 次審査：10 月 10 日（日）

最終審査会：10 月 26 日（火）

審査委員 5 名 内閣府大臣官房総務課管理室長ほか

入賞・入選者数：130 名 内訳／大臣賞 2 名・運動本部賞 2 名・特別優秀賞 6 名

フレンドシップ賞 1 名・審査員特別賞 1 名・優秀賞 18 名

入選 100 名

要項・入賞発表：毎日新聞／ 5 月 22 日（土） ・ 11 月 17 日（水）

教育新聞／ 6 月 14 日（月） ・ 12 月 6 日（月）

情報誌『小さな親切』令和 4 年新春号

本部 WEB サイト

表彰式：中止 ※賞状及び副賞は、各学校または地域組織より伝達した。

### 3. 青少年すこやか育成事業

#### ○ 青少年教育専用 WEB サイト「てらこあん」を通じた教育活動

- これまで実施してきた小学校道徳授業のレポート、また教育プログラムを教育関係者向けに提供した。

### 4. みんなつながる、トモダチ作戦

#### ○ 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開

当該年度は「東京 2020 応援プログラム」認証を受け、同プログラム終了の 9 月末まで、東京 2020 応援マーク入りのグッズをあいさつ運動推進先に提供し、オリパラを盛り上げた。平成 30 年の応援プログラムプレスタートから 4 年間で、39 都道府県、537 団体にグッズを提供。なお 10 月以降は従来デザインのグッズに切り替えた。

#### ○ あいさつ推進グッズの提供数

提供団体：104 団体

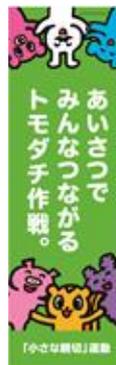
配布物：のぼり 462 枚・たすき 1,688 枚・ポスター 2 種 710 枚

- ※1 団体につき、のぼり 3 枚、たすき 10 枚、ポスター 4 枚（但し、規模の大きな学校から、1 団体あたりの配布数を超える要望がきた場合は、基本的に応じる）

※非会員校には送料 700 円を負担してもらい、送付。



1) 応援マーク入りグッズ



2) 従来デザインのグッズ

○ 提供先について

- ・ 当該年度は、応援プログラムの推進のため、地域組織より「あいさつ運動推進校」や「小さな親切」実行章を受章した学校などへ、参加を積極的に呼び掛けていただいたこともあり、提供先の約 8 割が地域組織の関係校であった。
- ・ 学校以外には、自治体、介護施設、社会福祉協議会、自治会などへ提供。地域や職場でのコミュニケーションの円滑化、活性化に活用されている。
- ・ 熊本県の会員校・専修大学玉名高等学校では、SDGs の「住み続けられるまちづくり」に関連する活動としてあいさつ運動を推進。

○ 活動事例の紹介

情報誌『小さな親切』での紹介。

夏 号 (No.523) ・三重県 菰野町立鶴川原小学校／松阪市立飯高中学校

秋 号 (No.524) ・熊本県 専修大学玉名高等学校

## 5. ことばの魔法プロジェクト

### 第 37 回「小さな親切」はがきキャンペーン

○ 応募作品の傾向

- ・ 前年度、新型コロナウイルス感染症にまつわるエピソードが多く寄せられたこともあり、新たに 2 つ目の特別テーマ「コロナのある生活」を設けたところ、在宅勤務やオンライン授業が定着する中、毎日を共に過ごす身近な人への感謝を綴った作品が多数寄せられた。また、発する言葉の大切さに気づいた、何気ない一言に救われたといった「言葉」にまつわるエピソードも多かった。
- ・ コロナ禍の生活も 2 年目となったためか、オンラインで友人と励まし合いながらダイエットに励むなど、現状を楽しみながら前向きに過ごしていることがわかる作品も目立った。

○ 応募総数 1,760 編

- ・ 応募数が前年度比 84.9%にとどまった。昨年から続くコロナ禍の自粛生活において、おうち時間が多岐にわたり、「書くこと」以外で表現を楽しむ人が増えたことも減少の一因と推察される。
- ・ 会員企業や学校からの応募も減少した一方で、非会員校や日本語学校からの団体応募など、新しい動きもあった。
- ・ 特別テーマ②「コロナのある生活」に沿った作品が、応募総数の 31.0%を占めた。

○ 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開

- 1) 特別テーマ①として「世界との出会い ～ありがとう、どういたしまして」を設け、「東京 2020 応援プログラム」認証を受けて応募要項を作製。

応募要項 5,000 部

2) 特別テーマ①に沿った作品は全体の 14.8%であった。コロナ禍において、海外の方との交流機会が減ったこともあり、過去の体験に触れる内容が多かった。また、8月に開催された東京オリンピックに関連するエピソードも寄せられた。

3) 特別テーマ①の優秀作品の筆者、目加田朋美さん（愛知県）に『フレンドシップ賞』を贈呈。

#### 〔実施概要〕

後 援：日本郵便株式会社 読売新聞社

テ ー マ：心から伝えたい“ありがとう”

特別テーマ：① 世界との出会い ～ありがとう、どういたしまして～

② コロナのある生活

対 象：子どもから大人まで

応 募 方 法：はがき及び専用フォームまたはメールで応募（いずれも 600 字以内）

締 め 切 り：9月8日（水）当日消印有効

審 査 会：10月8日（金）

審査員 5名 日本郵便㈱切手・葉書室課長ほか

入賞・入選者数：25名 内訳／大賞1名・日本郵便賞1名・読売新聞社賞1名・

審査員特別賞1名・フレンドシップ賞1名・入選20名

副 賞：上位賞／切手シート・図書カード・書籍・高級文房具

入 選／図書カード・文房具

要 項・入賞発表：読売新聞／4月20日（火） ・ 11月9日（火）

レターパーク5月号・公募ガイド6／9月号・登竜門・

情報誌『小さな親切』春号&令和3年秋号・本部WEBサイト

表 彰 式：中止 ※賞状及び副賞は、本人または学校宛に送付。一部地域組織より伝達した。

## 6. 令和3年度「小さな親切」運動全国表彰式

式典は例年11月に開催するが、年度初めの段階では、この時期の国内の感染状況、また参加者の中心となる小中学生のワクチン接種がどの程度進むかの予想が困難であり、十分に進まなかった場合、会場で感染を拡大してしまう恐れがあったことから中止とした。

なお、当該年度の運動推進に特に尽力された団体、個人に贈呈する『運動大賞』、『運動賞（個人・団体）』については、活発な活動展開自体が難しいと想定されたため、本年度の贈呈は見合わせた。長年の運動推進に功績のあった方に贈る内閣官房長官賞は、例年5名枠をいただいていることから、内閣府に5名を推薦し受賞が決定した。

式典内で行っている『内閣官房長官賞』『作文コンクール（入賞・入選）』『はがきキャンペーン（入選・入賞）』受賞者への表彰については、地域組織に協力を依頼して、可能であれば伝達いただき、難しい場合はご本人または学校に賞状、副賞等を送付した。

「小さな親切」運動推進功労者内閣官房長官賞 / 5名

1) 若山 直 (76歳) 北海道 函館支部理事

- |                 |     |                   |
|-----------------|-----|-------------------|
| 2) 森平 政雄 (89 歳) | 青森県 | 十和田支部参与           |
| 3) 本間 和夫 (73 歳) | 山形県 | 山形「小さな親切」の会前代表    |
| 4) 片亀 歳晴 (75 歳) | 群馬県 | 個人正会員・運動本部特任推進委員長 |
| 5) 田中 香實 (84 歳) | 香川県 | 高瀬町支部前代表          |

(都道府県順)

## 7. 『小さな親切』誌の刊行 <(一財)日本宝くじ協会助成事業>

季 刊 発 行 : 年 4 回 (春号 5 月・夏号 8 月・秋号 11 月・新春号 1 月)

発 行 部 数 : 1 回あたり約 30,000 部 年間延べ 120,000 部

## 8. 地域の輪・和・環プロジェクト <協力:(株)A2Z>

### ○ 地域組織に車椅子を斡旋

- ・ 前年度斡旋機種 (TD-1N:ピジョンタヒラ社製) の値上がりを受け、同価格で斡旋可能なミキ社製(BAL-1)に斡旋機種を変更。購入組織が地域の社会福祉施設等に寄贈した。

#### 〔実施概要〕

実 施 組 織 : 13 県本部 25 支部

斡 旋 数 : 92 台 (うち リクライニング 4 台、シャワーキャリー 1 台、ベビーカー 2 台)

種 類 : ①BAL-1 (ミキ社製)

自走式/介助ブレーキ (ドラム式) 付/背折れタイプ

キャスター 6×22 インチ/座幅 40cm/前座高 43.5cm/全長 98cm

全幅 65cm/全高 86.5cm/重量 12 kg

②プレート サイズ縦 4 cm×横 11 cm/白地に黒文字の亚克力製

文字は 3 段以内で 1 段の文字数は 13 文字程度

価 格 : ①車椅子本体 18,400 円 /メーカー希望小売価格 69,000 円

②プレート 2,000 円 /希望組織のみ

展 開 方 法 : ・ 4 月購入希望 (台数及びプレートの有無) のアンケート実施

・ 6 月に締切り、A2Z (東京都・ピジョンタヒラ代理店) に発注

・ 10 月 1 日~11 月 1 日の期間に、A2Z より指定先へ発送

代金請求&入金: 中央本部より 11 月に請求し、12 月 24 日 (金) までに入金

## 9. 日本列島クリーン大作戦(38 回目) <事業協力:日本たばこ産業(株)>

### ○ 「伝えよう、日本の心プロジェクト」事業の一環として展開

「東京 2020 応援プログラム」認証を受け、年度初めに東京 2020 応援マーク入りの、のぼり・ポスターを配布。

- ・ 大規模清掃活動は感染症再流行ならびに感染拡大防止の観点から、多くが中止、または延期となった。

- ・ 一方、一部地域では、会員企業・学校に自主的な活動呼びかけ、JT 提供のごみ袋を配布するなど、それぞれの実情に沿った活動への支援を行った。
  - ・ 実施した地域については、年間を通じ、感染症が落ち着いた時期に日程を合わせて行われ、参加企業の周辺道路や公園、学校周辺での清掃活動を行う中小規模のものが多く、最大でも 500 名の参加であった。
  - ・ 実施組織：12 組織で、のべ約 5,800 名が参加
  - ・ 実施した組織では、受付での検温ならびに手指消毒、緊急連絡用名簿の記入を行うほか、活動中はマスク着用を呼びかける、参加者同士の距離を取るなどの感染対策を行った。
  - ・ なお、「伝えよう、日本の心プロジェクト」として、令和元年度から 3 年間で 33 都道府県のべ約 22 万人が参加。
- ごみ袋総数 80,000 部 /提供：日本たばこ産業（株）  
内訳／可燃・不燃用共通 30ℓ：42,205 部 ・手提 12ℓ：37,795 部

〔実施概要〕

後 援：内閣府、文部科学省、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、警察庁  
 協 賛：コカ・コーラ協会、(公社) 食品容器環境美化協会、スチール缶リサイクル協会、(公財) 日本環境協会、日本石鹼洗剤工業会  
 スローガン：美しい日本、美しい心  
 期 間：令和 3 年 4 月 1 日(木)～令和 4 年 2 月 28 日(月)

10. 日本列島コスモス作戦 (33 回目) <協力：タキイ種苗(株)>

○ 種子の斡旋

コスモス種子袋及び種子 (dℓ・ℓ)、ミニヒマワリ種子袋、ヒマワリ種子袋の斡旋。

〔実施概要〕

発 注 数：	●コスモス種子袋	27,962 袋
	種子 (dℓ・ℓ)	100 dℓ ・ 39 ℓ
	●ミニヒマワリ種子袋	45,536 袋
	●ヒマワリ種子袋	1,594 袋
価格(税込)：	①コスモス種子袋	1 袋 14 円
	②ミニヒマワリ種子袋	1 袋 16 円
	③ヒマワリ種子袋	1 袋 14 円
	④コスモス種子	1 dℓ 550 円 ・ 1 ℓ 5,445 円

発 送：4 月中旬

代金請求と入金：中央本部から 4 月に請求し、5 月末日までに入金

- ・ ミニヒマワリは他の種子 (小袋) に比べて単価が高かったものの、これまではタキ

イ種苗と協議の上、3種の種子を同一金額で購入していた。しかし諸経費の高騰に伴う当該年度の価格改定に当たっては、同じ単価での提供がどうしても難しいとの結論にいたり、ミニヒマワリ種子のみ、他の種子とは異なる価格での提供となった。

## 11. 使用済み切手等寄贈

### ○ 感染症拡大による受付停止

- ・ 個人、企業、学校等から寄せられる切手等については中央本部で取りまとめ、寄贈先へ送付。地域組織が取りまとめたものは、基本的に海外支援団体に直接送付してもらった。
- ・ しかし、(公社)日本キリスト教海外医療協力会が、感染症流行に伴い、昨年度に引き続き受け入れを休止したため、例年のような活動が困難となった。
- ・ 当該年度は、通年受け入れを行っていた下記団体に寄贈。

〈寄贈先〉 使用済み切手: (公財) 緑の地球防衛基金

使用済みプリペイドカード: NPO 法人日本国際ボランティアセンター

### ○ 収集・寄贈数量

- ・ 使用済み切手 550.06 kg
- ・ プリペイドカード 5,280 枚

(静岡、奈良、山陰、山口、香川、愛媛、鹿児島)の各県本部収集・寄贈分を含む

### ○ 協力者氏名をホームページに掲載

内訳／地域組織 7 件・企業 20 件・団体 16 件・個人 21 件・匿名 8 件

／中央本部に寄せられたのべ数

地域組織 (県本部・支部)					
北海道	北見支部	青森県	十和田支部	宮城県	宮城県本部
山形県	酒田の会	熊本県	熊本県本部		
企業・団体					
北海道	北見通運(株)	埼玉県	(株)かんなん丸	千葉県	新日本メンテナンス(株)
東京都	(株)DINOS CORPORATION	東京都	三省堂印刷(株)	東京都	日立金属(株)
岐阜県	(株)松永製作所	静岡県	静岡県西部出納室	三重県	三重県名張警察署
大阪府	安藤忠雄建築研究所	大阪府	医療法人拓海会 大阪北ホームケアクリニック	大阪府	社会医療法人仙養会 北摂総合病院
大阪府	マーカス経営会計事務所	兵庫県	テラダ産業(株) 広畑出張所	奈良県	奈良県 旅館・ホテル生活衛生同業組合
島根県	有限会社夢工房	岡山県	タチバナ工業(株) 中国支店	広島県	(株)熊平製作所
愛媛県	社会医療法人同心会 西条中央病院	愛媛県	社会福祉法人 寿山会	愛媛県	ベルグアース(株)
愛媛県	マルトモ(株)	長崎県	平和建設興業(株)	宮崎県	宮崎銀行 高鍋支店
鹿児島県	(株)朋友 介護タクシー楽走				
個人					
群馬県 1 名・埼玉県 1 名・千葉県 2 名・神奈川県 3 名・三重県 1 名・大阪府 3 名・岡山県 1 名・宮崎県 1 名・ 鹿児島県 1 名・匿名 8 件					

## 12. 伝えよう、日本の心プロジェクト <東京 2020 応援プログラム認証事業>

### ○ 各事業の実施状況（4月1日～9月31日の活動が対象）

- 1) 日本列島クリーン大作戦 /のぼり旗、ポスター提供  
→ 実施時期が新型コロナ第4波、5波と重なっていたこと、また天候不良の影響もあり、多くの清掃活動が中止、延期となったが、小規模に切り替えて開催した地域もあった。期間内の実施は8県、8地域で、参加者は約4,550名。
- 2) みんなつながろ、トモダチ作戦 /のぼり旗、たすき、ポスター提供  
→ 感染拡大防止の観点から、大きな声でのあいさつを推奨する本活動に消極的な学校も多く、実施先は限られた。グッズ提供先は16道府県、59カ所であった。
- 3) 「小さな親切」実行章 /海外交流が推薦事由の場合、特製バッジを贈呈  
→ 海外の方との交流機会、親切を行う場面が非常に限定的であったことから、海外交流実践を事由として受章された方（団体）はごく少なかった。
- 4) はがきキャンペーン /特別テーマの設定  
→ 特別テーマ（海外の方との交流）に沿って書かれた作品応募の割合は、14.8%。オリンピック・パラリンピックシーズンはそもそも外出を控える方が多かったため、「世界との出会い」にかかわる応募は、ほとんどが過去の体験を綴った作品であった。
- 5) 「小さな親切」作文コンクール /特別テーマの設定  
→ 入賞・入選130作品中、特別テーマ作品応募の割合は10.0%。はがきキャンペーン同様、直接の交流体験は少なかったものの、東京2020大会に関連した内容として、テレビ観戦で感じたこと、例えば大会スタッフやボランティアの活動、日本のおもてなしの精神の素晴らしさ、選手が見せた思いやりの行動などについて、多様な作文が寄せられた。特に、競技会場に向かうバスを間違えたジャマイカ代表選手を助けた大会スタッフの行動に着目した作品が目立った。

## 13. その他

### ○ 各地域の親切運動支援

- 1) 地方活動助成費の交付 /6月交付  
総 額：7,547,000円（令和2年度会費収入の12%）
- 2) 全国地方本部事務局長会議（オンライン会議）  
と き：令和4年2月10日（木） 13:00～15:30
- 3) 地域組織の各種会合への講師派遣、会議出席等  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、派遣、出席なし。

### ○ 各種パンフレット、ポスター等の作製

- 1) 基本資料  
基本パンフレット・三つ折りしおり・八か条カード・実行章パンフレット・

- 八か条ポスター・「小さな親切」運動イメージポスター  
2) 法人会員楯、会員バッジなど

## 収益事業

### 1. はがきキャンペーン作品の書籍化

当該年度は書籍化なし。

### 2. 「小さな親切」運動グッズの販売

#### 〔作 製 物〕

クリアファイル：@ 50 円

ボールペン：@100 円（地域組織販売価格@60 円）

マスクケース：@400 円（地域組織販売価格@350 円）

※会員には割引を行い、会員特典を設定した。

※クリアファイルは、地域組織には県本部 3 箱、支部 1 箱の上限を設けて無料提供。（送料 1 箱 550 円は組織負担）。上限を超えた場合は上記価格で販売。

#### 〔販 売 数〕

クリアファイル：2,070 枚 93,150 円（無料提供分除く）

ボールペン：3,907 本 236,160 円

マスクケース： 149 枚 52,150 円

### 3. 作品集の販売

- 作品集 / 作文コンクール&はがきキャンペーン合併版

タイトル：『しあわせは君のそばに』

作成数：3,000 部

価格・販売数：@450 円（地域組織・会員割引：10 冊以上購入で 30%OFF）

発行日：令和 4 年 2 月 15 日（火）

## その他事業

### 1. 総会・理事会

- 1) 第 11 回社員総会：書面開催（役員のみ出席）

令和 3 年 6 月 22 日(火) 14:00～ / 「小さな親切」運動本部事務局

令和 3 年度臨時社員総会：書面開催（役員、一部社員のみ出席）

令和 3 年 10 月 15 日(金) 14:00～ / 「小さな親切」運動本部事務局

- 2) 理事会 3回開催  
第46回(5/24)・第47回(9/24)・第48回(3/11)

## 2. 「小さな親切」運動本部特任推進委員の委嘱

当該年度は委嘱者なし。

## 3. エコキャップ収集運動

地域組織の自主事業として展開され、京都府本部、山陰本部、山口県本部、香川県本部が実施。

## 4. 心の国際交流

地域組織の自主事業として展開しているが、感染症拡大の影響を受け、当該年度の交流活動は全て中止。但し、栃木県足利支部は、外国人留学生などを招いて行っていた国際交流イベントが2年続けて中止となることから、今年度は会員向けに資料を配布し国際交流活動への理解と協力を求めた。

## 広報活動

### 1. WEBサイトによる情報発信

公式WEBサイト、Facebook等を通じて、実行章ほか各事業の活動状況を広く発信した。

### 2. 感染症対策情報等の提供

(一社)感染症対策コミュニケーションラボの協力を得、「心のワクチン運動」として、感染症対策に関する正しい知識と、差別や偏見のない思いやりの行動の大切さを広く社会に発信。具体的には、情報誌、WEBサイトでの新型コロナ対策情報提供を行うと共に、差別や偏見を防ぐ小学生向け教育プログラムを開発し、都内の小学校でモデル授業を実施。

#### ○ 作文コンクール入賞作品を活用した 差別・偏見を防ぐ教育プログラムの開発と提供

- ・ コロナ禍の差別・偏見を考える、令和2年度作文コンクール文部科学大臣賞受賞作品「コロナで変化した親切」を教材とし、道徳(低・中・高学年)及び学級活動(中・高学年)の学習指導案を開発するとともに、メディアに発信した。
- ・ WEBサイトに「心のワクチン運動」ページを作成し、教材・指導案を配布。

## 寄 附

金 額 258,361 円  
寄附者 18 件 (匿名含む)

## 見舞金

見舞金の呼びかけなし。